

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : n-ペンタン

会社情報

会社名 : 関東化学株式会社
住 所 : 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門 : 試薬事業本部 企画管理部 資料課
電話番号 : (0120)260-489
FAX番号 : (03)3241-1047
メールアドレス : BC32@kanto.co.jp

整理番号 : 32051
SDS 適用製品番号 : 32051, 32053
推奨用途 : 試験研究用
使用上の制限 : 推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	引火性液体	区分 2
健康有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2B
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
	誤えん有害性	区分 1
環境有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分 2

絵表示



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 引火性の高い液体及び蒸気
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
水生生物に毒性

注意書き

安全対策 : 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること。
ミスト／蒸気の吸入を避けること。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

- 応急措置
- ： 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
 - 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
 - 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 - 無理に吐かせないこと。
 - 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- 保管
- ： 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 - 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 - 施錠して保管すること。
- 廃棄
- ： 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：物質

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
n-ペンタン	≥ 97	C5H12	2-5	既存化学物質	109-66-0

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合
- ： 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
- 皮膚に付着した場合
- ： 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
- 眼に入った場合
- ： 直ちに流水で15分以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合
- ： 揮発性があるので、吐き出させるとかえって肺の吸引などの危険性が増す。速やかに医師の処置を受ける。水で口の中を洗わせてもよい。
- 応急措置をする者の保護
- ： 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

- 症状/損傷
- ： 吸入すると、めまい、し眠、頭痛、吐き気、意識喪失、嘔吐を起こす。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤
- ： 粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡
- 使ってはならない消火剤
- ： 水
- 消火方法
- ： 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
 - 初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火を行う者の保護
- ： 呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 : 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。
作業場所の換気を十分行う。

安全取扱注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行なう。
酸化剤と接触させない。

保管

安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料 : ガラス、ふっ素樹脂、ステンレス。
塩化ビニル樹脂、アクリル樹脂、ポリエチレンなどは使用しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	880 mg/m ³
産衛学会 許容濃度	300 ppm
ACGIH TWA	1000 ppm

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具 : 防毒マスク（有機ガス用）または送気マスク

手の保護具 : 耐溶剤手袋

眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 : 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

色 : 無色

臭い : わずかな芳香

pH : 中性

融点 : -129.7 °C

凝固点	: データなし
沸点	: 36.1 ° C
引火点	: -49 ° C (C.C.)
自然発火点	: 309 ° C
分解温度	: データなし
可燃性	: 引火性
蒸気圧	: 573 hPa (20°C)
相対密度	: データなし
密度	: 0.621 - 0.629 g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度	: 2.5
溶解度	: 水: 不溶。有機溶媒: エタノール、ジエチルエーテルなどと自由に混合。
n-オクタノール/水分配係数 (log Pow)	: 3.39
爆発限界 (vol %)	: 1.4 - 8 vol %
動粘性率	: 0.37 mm ² /s (20°C)
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 酸化剤と接触すると反応することがある。
化学的安定性	: 通常条件で安定である。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下では安定。
避けるべき条件	: 日光、熱。
混触危険物質	: 酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない ラット LD50>2000mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 区分に該当しない ウサギ LD50=3000mg/kg
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない (気体) 区分に該当しない (蒸気) マウス LC50=69765ppm/4h 分類できない (粉じん、ミスト)
皮膚腐食性/刺激性	: 区分に該当しない ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404、GLP 準拠) において、一次刺激性スコアは 0.67 であったことから刺激性なしと判断されている。また、本物質をヒトに 24 時間半閉塞適用 (GLP 準拠) した結果、刺激性なしとの記載がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 眼刺激 ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405 相当、GLP 準拠) において、一過性の結膜炎が認められ刺激性スコアは 3/110 であったことから、軽度の刺激性と判断されている。以上の結果から区分 2B とした。
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 区分に該当しない モルモット (20 匹/群) を用いた感作性試験 (OECD TG 406、GLP 準拠) において、感作誘発による皮膚反応はみられなかったことから、感作性なしと判断されている。

生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない In vivo では、マウスの優性致死試験、ラット骨髓細胞の小核試験で陰性である。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である。
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 眠気又はめまいのおそれ 呼吸器への刺激のおそれ ヒトにおいては、目まい、頭痛、麻酔性、中枢神経系抑制の報告がある。実験動物では、マウスの吸入ばく露で麻酔作用、協調運動低下、正向反射抑制が認められており、本物質の麻酔作用によるものと考えられる。以上より、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない 実験動物ではラットに本物質蒸気を13週間吸入ばく露した試験で、20,000 mg/m ³ まで投与しても、毒性影響は全くみられず、また、ラットに本物質を8,970 mg/m ³ で30週間吸入ばく露し、神経毒性の有無を後肢着地開脚幅、神経病理組織学的検査で評価したが、神経毒性の兆候は検出されなかった。以上、吸入経路では実験動物の知見からは区分外相当と考えられるが、ヒトでの知見が少ないこと、及び他の経路での毒性情報がないことから、データ不足のため「分類できない」とした。
誤えん有害性	: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ 炭化水素で、動粘性率が0.37 mm ² /s (20℃)であることから、区分1とした。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	: 水生生物に毒性 甲殻類(オオミジンコ) EC50=2.7mg/L/48h
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない 藻類(ムレミカヅキモ) NOEC(r)=2mg/L/72h

残留性・分解性

良分解性
BOD : 96%

生体蓄積性

低濃縮性
log Pow : 3.39

土壤中の移動性

高移動性
Koc : 72

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性	: 分類できない
-----------	----------

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送 (IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 1265
- 正式品名 (IMDG) : PENTANES
- 容器等級 (IMDG) : II
- 輸送危険物分類 (IMDG) : 3

航空輸送 (IATA)

- 国連番号 (IATA) : 1265
- 正式品名 (IATA) : Pentanes
- 容器等級 (IATA) : II
- 輸送危険物分類 (IATA) : 3

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

汚染物質カテゴリー : Y

国内規制

- 陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。
- 海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
- 航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
- その他の情報 : 補足情報なし
- 緊急時応急措置指針番号 : 128

15. 適用法令

国内法令

- 労働安全衛生法 : 危険物・引火性の物 (施行令別表第 1 第 4 号)
名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 1 号、第 2 号別表第 9)
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条の 2、施行令第 1 8 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)
ペンタン (政令番号 : 543)
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 消防法 : 第 4 類引火性液体、特殊引火物 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1・第 4 類)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 (Y 類物質) (施行令別表第 1)
- 船舶安全法 : 引火性液体類 (危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
- 航空法 : 引火性液体 (施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1)
- 港則法 : その他の危険物・引火性液体類 (法第 2 1 条第 2 項、規則第 1 2 条、危険物の種類を定める告示別表)
- 道路法 : 車両の通行の制限 (施行令第 1 9 条の 1 3、(独) 日本高速道路保有・債務返済機構公示第 1 2 号・別表第 2)
- 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

16. その他の情報

- 参考文献 : 有機化合物辞典、有機合成化学協会編、講談社 (1985)。
溶剤ハンドブック、浅原照三 他編、講談社 (1976)。
Dangerous Properties of Industrial Materials, 6th ed.
N. I. Sax 他編 Van Nostrand Reinhold Company (1984)。
国際化学物質安全性カード (I C S C) 日本語版、化学工業日報社 (1992)。
17322 の化学商品、化学工業日報社 (2022)。
NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIIP)、独立行政法人製

品評価技術基盤機構。

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。